



柔道整復師養成専門学校

卒業生のリアリティ

卒業生たちが
自ら語る



公益社団法人
全国柔道整復学校協会

〒105-0013 東京都港区浜松町1-6-2 丸神ビル1F
TEL.03-5405-1690 FAX.03-5405-3790
<http://www.judo-seifuku.or.jp>

卒業生たちの「今」=〈仕事・やりがい・目標〉

それは在学中に描いた“夢”のカタチ

ここに登場する柔整師は、柔整師養成教育の質向上を目指す公益社団法人全国柔道整復学校協会の会員である専門学校の卒業生たちです。概ね卒業後10年くらいまでの卒業生である彼らの初期キャリアを、彼ら自身の言葉で紹介してもらっています。こうした小冊子を発行するのは、会員校における教育の質の証は、何よりもその卒業生たちであり、その初期キャリアの状況に示されると考えたからです。

紹介されているのは、会員校から一人ずつ全体で41名、ごく一握りの卒業生ですが、そのキャリアは多様であり、一人一人の仕事の在りよう、やりがいの感じ方、これから目指す目標も異なっています。卒業生の活躍するフィールドは、接骨院をベースにスポーツ、美容、介護など様々な現場です。早くも開業したり、組織化された接骨院グループの店長を任せたりして、マネジメントなど経営的な課題に挑戦している人もいます。

また誰もが、患者さんとのコミュニケーションの大切さを語り、患者さんに親身に接し心身共に回復を図っていくことで、地域への貢献を果たしたいと願っています。こうした使命や将来の目標達成に向け、卒業生たちは日々新たな知識・技術の習得に高い意欲を示しています。そして彼らは、学習継続の土台としての専門学校での学習の重要性とハイレベルな授業を担当してくれた教員への感謝を述べています。

この小冊子には、そんな卒業生たちの今の熱いメッセージが一杯込められています。ご一読いただき、その思いを受け止めて柔道整復師の世界の魅力を感じていただければうれしく思います。

公益社団法人 全国柔道整復学校協会
広報委員会

柔道整復師を目指す方へ



Contents

北海道柔道整復専門学校	01	関東柔道整復専門学校	18	東洋医療専門学校	35
辰口耕樹 さん		佐野涼 さん		春木一真 さん	
北海道メディカル・スポーツ専門学校	02	新宿医療専門学校	19	関西健康科学専門学校	36
(北海道ハイテクノロジー専門学校)		田村亜有 さん		藤下侑奈 さん	
岩間絢子 さん		アルファ医療福祉専門学校	20	朝日医療大学校	37
盛岡看護医療大学校	03	加登修平 さん		吉田和彦 さん	
平野裕和 さん		東京医療福祉専門学校	21	IGL医療福祉専門学校	38
仙台接骨医療専門学校	04	三島康祐 さん		大谷芳貴 さん	
柴田匡一郎 さん		吳竹鍼灸柔整専門学校	22	四国医療専門学校	39
赤門鍼灸柔整専門学校	05	酒井大輔 さん		川野裕香 さん	
佐藤洋 さん		専門学校 浜松医疗学院	23	河原医療福祉専門学校	40
福島医療専門学校	06	鈴木敬章 さん		宗次千尋 さん	
小川智弘 さん		米田柔整専門学校	24	福岡医療専門学校	41
前橋東洋医学専門学校	07	清水美雪 さん		佐々木旭 さん	
石川龍裕 さん		中和医療専門学校	25	福岡医健・スポーツ専門学校	42
大川学園医療福祉専門学校	08	田口菜月 さん		町田実雄 さん	
高場彩 さん		名古屋医健スポーツ専門学校	26	福岡天神医療リハビリ専門学校	43
吳竹医療専門学校	09	嶋田征矢 さん		森田祥成 さん	
深谷昂平 さん		北信越柔整専門学校	27	九州医療スポーツ専門学校	44
日本柔道整復専門学校	10	窪田和樹 さん		出水慎一 さん	
矢澤慎士朗 さん		京都医健専門学校	28	九州医療専門学校	45
東京柔道整復専門学校	11	長尾裕次郎 さん		勢木禎二 さん	
村越嵩紀 さん		関西医療学園専門学校	29	専門学校 沖縄統合医療学院	46
東京医療専門学校	12	松村有利子 さん		幸地美咲 さん	
友枝郁也 さん		明治東洋医学院専門学校	30		
日本医学柔整鍼灸専門学校	13	石倉舞香 さん			
割田憂貴 さん		平成医療学園専門学校	31		
スポーツ健康医療専門学校	14	川合宏明 さん			
渕ノ上真太郎 さん		森ノ宮医療学園専門学校	32		
東京メディカル・スポーツ専門学校	15	皿海辰也 さん			
池原亮 さん		履正社国際医療スポーツ専門学校	33		
日本工学院八王子専門学校	16	杉本広樹 さん			
清水美香子 さん		近畿医療専門学校	34		
日本健康医療専門学校	17	小北悠司 さん			
藤田みなと さん					

case
01

Koki Tatsuguchi
北海道柔道整復専門学校[北海道]
2015年卒業

トレーナー技術をしっかりと磨き、 ラグビーワールドカップに携わりたい。

患者との会話から見えてくること

私は外来・入院患者さんへの物理療法や手技療法を中心とした治療で、疼痛の軽減、ADL(日常生活動作)の向上を目標に日々業務を行っています。特に当院では膝人工関節置換術や脊柱後方固定術など数多くの手術を行っており、術後の早期退院を目指し、関節可動域訓練や歩行訓練などを患者さんのメニューを考えリハビリを行うことが多いですね。日頃から患者さんとの会話を大切にしています。人によって症状の感じ方や活動量、目指すゴールが違ってくるため、会話をすることでそこが見えてくると思います。またその人の生活スタイルや趣味など、会話を通して痛みの原因が分かることもあります。そのため話しやすい雰囲気を作れるよう努力しています。

今は仕事以外に母校の大学ラグビー部や社会人ラグビーチームのトレーナーとして貢献するために講習会に参加しています。また自身のスキルアップを目指して、専門学校時代の先生の整骨院で勉強をさせていただいている。まだまだ力不足ですが

チームに必要とされることが多くなり、やりがいを感じています。その分、求められることも多くなってくるので、もっと学んでいきたいと思います。

夢はラグビーW杯と独立開業

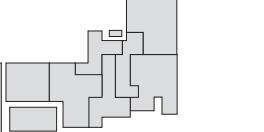
教科書に載っている知識だけでなく臨床での治療や考え方を学んだ専門学校時代。中でも印象的なのは、ラグビー現場で初めて脱臼の整復を行った際、教科書の中の説明だけでなく力の加え方や感じ方、その後の包帯での固定法までアレンジを加えて教えていただいたことで、脱臼処置のときも落ち着いてできたの覚えています。

今後は整骨院での業務も学び、5~8年後に独立開業できたらうれしいですね。現在関わっているラグビーチームのトレーナー活動は継続し、2年後

■柔道整復師
医療法人 社団 菊水整形外科 勤務
辰口耕樹 さん



北海道柔道整復
専門学校[北海道]



case
02

Ayako Iwama
北海道メディカル・スポーツ専門学校
(北海道ハイテクノロジー専門学校)[北海道]
2013年卒業

女性らしい視点を活かした、 女性のためのセラピストになりたい。

時には休日も仕事のために活用

徒手医学のコンセプトを元に治療から再発予防、トレーニングまでのボディメンテナンス、亜急性期の場合にはレッドコードやトレーニング機器を用いた運動療法、ノルディックウォーキングを取り入れての歩行指導も行っています。また院長の助手としてセミナーで使用する資料作成にも携わっています。患者さんと接するにあたり普段から気を付けていることは、原因が骨なのか筋なのか、それとも神経なのかで治療法は全く異なります。そのため検査・テストをしっかりと行い、明確な治療法やトレーニングメニューを考えることを心がけています。

まだまだ学ぶことが多い私ですが、将来的に女性らしい視点を活かしたセラピストになることが目標です。産後のケアやヒールを履くことによる身体へのダメージケアなど、女性特有の症状のケアに特化できたらうれしいですね。痛みの改善から健康増進のトレーニングまでトータルにサポートすることを目指しています。

徒手医学や運動療法としてのヨガ教室に通ったり、ノルディックウォーキング公認指導員取得セミナーにも参加しました。また正しい敬語や接客ができるように接遇セミナーに参加したり、テキストでの勉強は今も続けています。

現場では基礎医学の大切さを実感

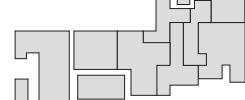
今、現場で働くようになってみて分ることは、学生時代に学んだ基礎医学の大切さです。医師や理学療法士の方と円滑なコミュニケーションを取るためにも、その勉強は続けています。現場での経験もとても重要ですが、基本的な知識の重要性も実感しています。

まだ学ぶことが多い私ですが、将来的に女性らしい視点を活かしたセラピストになることが目標です。産後のケアやヒールを履くことによる身体へのダメージケアなど、女性特有の症状のケアに特化できたらうれしいですね。痛みの改善から健康増進のトレーニングまでトータルにサポートすることを目指しています。

■院長助手・柔道整復師
荻窪リハビリスタジオ 勤務
岩間絢子 さん



北海道メディカル・
スポーツ専門学校
(北海道ハイテクノロジー
専門学校)[北海道]



case
03

Hirokazu Hirano
盛岡看護医療大学校[岩手]
2016年卒業

進取の精神を大切に、 幅広いアプローチで地域貢献を目指す。

鍼灸+柔道整復で治療に幅を

私は学生のころから鍼灸整骨院でアルバイトとして働いていました。そこで痛みやケガで来院される患者さんを目の当たりにし、専門学校で学んだ知識をリアルで実感できたことは資格取得後の今も大いに役立っています。また、早くから柔道整復師や鍼灸師の先輩方とともに働いてきたことで、卒業後の方向性をスムーズに決定きました。

先に取得した鍼灸師として鍼灸整骨院で働く中で、「自分でも外傷治療がしたい」、「柔道整復師を取得して施術や疾患に対して対応の幅を広げたい」という思いが強まり、昼は鍼灸整骨院で働き、夜は専門学校の夜間部に通学して柔道整復師を取得しました。私は高校時代にラグビーをしており、ケガをした際に地元の整骨院や整形外科で治療を受けたことがあつたため、自分も生まれ育った岩手で地元の方々の健康に携わりたいという考えがずっとありました。

先進技術を地域のために

平成29年12月に地元岩手県北上市に鍼灸整骨院を開業して以来、急性・慢性に関わらず幅広い年齢層の患者さんに来院していただいております。専門学校や勤務経験を通じて学んできた知識をベースに、県内でも珍しい新型治療器を導入するなど最先端の技術を積極的に取り入れられるよう日々研鑽しています。

近年、私の地元でも小学生からクラブチームに所属してスポーツする環境が整い、スポーツによるケガや成長期の痛みによる来院が増えているを感じています。子どもたちのために、ケガをしにくい体づくりに注力したいと考えています。あわせて、お年寄りの健康をサポートして高齢化する社会に貢献していきたいと思います。

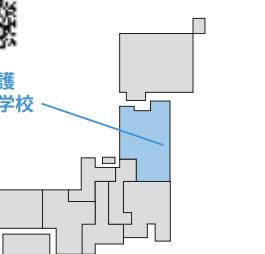
■柔道整復師
平野はり灸接骨院 院長
平野 裕和 さん

2009年／整骨院に鍼灸師として勤務
2017年／平野はり灸接骨院 開業

History



盛岡看護
医療大学校
[岩手]



case
04

Kyoichiro Shibata
仙台接骨医療専門学校[宮城]
2001年卒業

世界最高峰のセリエAでの体験が、 何よりも大きな財産です。

イタリアへ単身で渡るという決断

父が柔道整復師だったこともあり、私も同じ道を選びました。現在は父の経営している接骨院の院長をしています。院内治療業務のほか、プロアスリート・歌手のパーソナルトレーナーを兼務しながら、スポーツ傷害予防事業を各地にて開催しています。

振り返ってみると、私のキャリアを形成する上で2つの大きな転機があったと思います。2002年サッカーW杯で仙台市がイタリア代表のキャンプ地となつた際、知人を通じジャーナリストと知り合いました。当時、私が描いていたサッカーの世界最高峰リーグ・セリエAで活動したいという願いを受け入れてくれた彼を慕い、思い切って単身イタリアへ。これがひとつ目の転機です。ほとんど不安が大きかったのですが、「やるだけやってみよう。見聞を広めるだけでも価値がある」と踏み切りました。

地方のチームで研修を積み、2006年念願のセリエAのチームでメディカルスタッフとして活動を開始しました。バロンドール(サッカーの世界年間最優秀選手)を受賞した選手の身体を診る機会にも恵まれました。超一流のプロアスリートの身体に触れた、その時の経験は何よりも私の大きな財産です。コンディショニングに関する考え方、ケアの重要性、本当にすべてが一流だったと思います。

イタリアの中学生に受けた衝撃

試行錯誤しながらも順調にキャリアアップしていた私に、2つめの転機が訪れました。2011年の東日本大震災です。イタリアに残る選択肢もあったのですが、実家が被災したこともあり帰国を決断しました。今はスポーツ傷害予防を地域に根ざすことを目標に幅広く活動しているのですが、イタリアでの経験が大きく活きています。

あるイタリアの中学生クラブで、ヒザを故障した少年をケアしたことがあります。私の施術で具合が回復したこともあり、彼から「次はいつ、何時に来るのか?」「それに合わせるからまた診てほしい」とのこと。中学生ですがアスリートとして自分自身の身体の管理能力の違いに驚かされました。今は状況は違いますが、当時の日本のアスリートといえば、ほとんどがコンディショニングという発想はなくケガを治すだけだったと思います。このエピソードをよく引き合いに出し、スポーツでの傷害予防の大切さをアピールしています。

そういった経験をした私ですが、若い人には仕事をしていく感謝される誇りと喜びを感じてほしいですね。柔道整復師は、アスリート(患者さん)と喜びを共有できる素晴らしい仕事です。知識や技術はもちろんですが、その根本が何より大切だと思います。

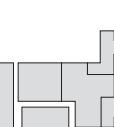
■柔道整復師・トレーナー
仁接骨院 院長
柴田匡一郎 さん

1998年／仙台接骨医療専門学校入学、仁接骨院にて研修開始
2001年／柔道整復師免許取得
2002年／認定柔道整復トレーナー研修終了
2003年／単身渡伊。イタリアサッカーリーグ 各地にて研修
2005年／F.C.B.セレニョ(セリエD)トレーナー
2006年／カルチョ・カタニヤ(セリエA)トレーナー
2008年／ミラノ市に治療院開設
セリエA所属選手パーソナルトレーナー
2011年／震災後、仁接骨院院長
各高校部活動 傷害予防担当
Jリーグ所属選手 専属トレーナー

History



仙台接骨医療
専門学校[宮城]



case
05

Hiroshi Sato
赤門鍼灸柔整専門学校[宮城]
2014年卒業

社名に込めた「H」の意味。
その実現に向けてキャリアアップ。

先輩経営者の話を経営に
役立てたい

平成28年に株式会社H2アシストという会社を設立し、代表取締役をしています。接骨院業務としては、平成29年に仙台市あすと長町に「佐藤接骨院スーパースポーツゼビオあすと長町店」を開業しています。その他、東北学院大学体育会硬式野球部、東北学院高校硬式野球部など各種スポーツでのトレーナー活動も行っています。私たちの仕事は困っている人を助けることができるとしてもすばらしいものです。そして来院していただいた患者さんやトレーナー現場で選手たちが元気な姿になっていくことに喜びを覚えます。私のモットーは「頼まれごとは試されごと」です。治してほしいと頼んできた相手に対して満足のいく治療ができるように日々精進しております。治療技術の向上のために勉強会やセミナーを行っていますが、それだけでなく、異業種交流会に参加したり、先輩経営者とお話する時間が多く取るように心掛けています。昨今、飽和状態にある我々の業界において、腕がいいだけでは生き残ることはできません。他の方々がビジネスをどのよ

うにしているのかを聞いて、少しでも経営に役立てていきたいです。

目標にしている2つの「H」

専門学校には現場で長く働かれていた先生方がたくさんいらっしゃったので、先生方に学ぶことで、いざ自分が仕事をする時に冷静に対応することができたと思います。教科書はあくまでも図書ですので、生身の人間がどういう状態なのかを教えていただいた経験はすごく貴重なものとなっています。私が代表を務めている株式会社H2アシストは、2つの「H」をアシストしたいと考えてつけました。1つ目の「H」は「Health(健康)」。私は「仙台を元気な高齢者でいっぱいにしたい」という大きな目標がありますので、若いうちからの運動習慣の大切さを訴えて治療とリハビリを行っています。2つ目の「H」は「Hero(英雄)」。もうひとつの目標としてスポーツ選手のセカンドキャリアを創出したいと考えています。当院には多くのスポーツ選手が来院していますが、引退した後に彼らがいきいきと働くことができる環境を作り、運動指導にあたってもらいたいと考えています。

■院長・柔道整復師
佐藤接骨院スーパースポーツゼビオ
あすと長町店 経営
佐藤洋さん



赤門鍼灸柔整
専門学校[宮城]



case
06

Tomohiro Ogawa
福島医療専門学校[福島]
2009年卒業

勤務先の院長先生の言葉が、
夢だった開業を後押ししてくれました。

自信から確信へと変わった5年目

学生の頃から将来は開業したいという目標があり、それに向けて働きはじめました。しかし、仕事として働き出すと理想と現実は全く異なるものでした。辛かったり苦しかったこともありましたが、その反面、嬉しいこと楽しいことも少しずつ増えていました。日常の業務と院長による週に一度の勉強会を通して自信を持ちはじめた5年目、なんなく開業を意識し始めた頃、院長からも「そろそろだな」と声をかけていたいたこともあり自信が確信へと変わりました。このタイミングで開業しようと決断しました。学生時代に知識だけでなく、動画や映像での整復動作や固定法など、教科書だけでは学べないものを学べたことが、役に立っていると思います。現在は患者さんに親身になって対応すること、最後は必ず手を当て手技を行うこと、元気に笑顔でいることをモットーにしています。

すべては周りの協力があってこそ
また月に一度、ボランティアでトイレ掃除や駅周辺のゴミ拾い、休日にはトレーナー活動もしています。学生の頃は自分が反対側の立場でゴミを捨てたり、部活では治療してもらったりテープを巻いてもらったりと、やつてもらうのが当たり前に過ごしていました。ただ健康に過ごしているのも、周りが円滑に動いているのも、周りの方のたくさんの協力があってこそ社会が動いているのだと思います。自分自身が開業したこともあり、感謝する心がより強くなり、そういう活動につながっています。まだ開業して間もないですが、地域に根ざしたアットホームな接骨院づくりを目指しています。地域のみなさまに愛され、何かあれば「とりあえず小川接骨院に行こう」といわれるような接骨院にしていきたいですね。

■柔道整復師・スポーツトレーナー
小川接骨院 院長
小川智弘さん

2010年／接骨院で柔道整復師として勤務
2016年／接骨院を開業し、接骨院経営と並行して
スポーツトレーナーとしても活動

History



福島医療専門学校
[福島]



case
07

Ryosuke Ishikawa
前橋東洋医学専門学校[群馬]
2013年卒業

次のステップを模索していた5年目、 転職のタイミングが訪れました。

来患数は院が信用している証拠

転職した整骨院グループの分院で、院長として若いスタッフ6名と共に働いています。日々、自院の管理を行いながら、スタッフには手技療法や固定法、その他の治療法の教育を行っています。技術的なことはもちろんですが、患者さんの目線でコミュニケーションをとることの大切さを教えています。訪れた患者さんが満足して「よくなつたよ」と言われることが一番のやりがいですが、今はマネジメントに携わる立場として、一日の来患数も気になります。多くの患者さんが訪れてくれるというのは、院が愛されている証拠であり、信用されている証拠だと思っています。

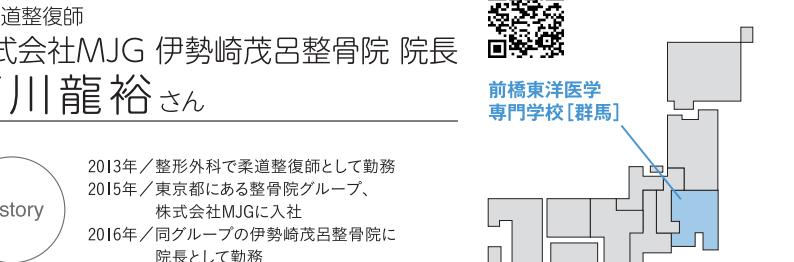
もともと私は整形外科で5年間勤務していました。将来的には整骨院を開業したいという思いがあり、整骨院や接骨院の業務を学ぶ必要性を感じていたときに、転職のタイミングが訪れました。自分の中では3年でもなく10年でもなく、5年目というのが大きかったです。整形外科での仕事をひと通り覚え、次のステップアップ

を模索し始めていた時期だったと思います。

一施術者から院長という転機

転職して1年、また大きな転機が訪れました。上司から分院を任せたいとのこと。不安もありましたが、うれしさが上回りました。それまでは一施術者でしたが、今度は院長としての勤務です。大変なことも多いですが、やりがいも大きくなつたと思います。今でも母校にあいさつに行く機会があり、仲のいい先生がいらっしゃった場合は仕事のことやプライベートなことに関して相談に乗っていただいています。

学問の面はもちろんですが、専門学校時代の人と人とのつながりを大切にしたいと思います。今後は会社の発展に向けて、マネジメントする立場をもっと勉強したいですね。個人で経営するのとは違った視点で物事を見られるので、そういう業務にも興味があります。患者ありきの視点を忘れずに、今はいい環境で仕事ができますので、この立場で頑張っていきたいと思います。



case
08

Aya Takaba
大川学園医療福祉専門学校[埼玉]
2012年卒業

志の高い柔道整復師の育成に少しでも お手伝いができればと思います。

人生の方向性を決めた 先生との出逢い

私は出身専門学校で教鞭を取りながら、東京の鍼灸整骨院で治療に従事しています。今は3年生の担任として全員の国家資格取得を目指し、不得意科目となるべく作らないようにアドバイスしています。国家試験科目は11教科あり、特に3年次の1年間は実技試験の練習も忙しいので、タイムスケジュールをしっかりと組み目標を見据えるように伝えています。学生に対しても接骨院の患者さんに対して、心掛けていることは、一瞬の出逢いを大切にすること。心を込めて接することで共に信頼関係を築くことができれば、それぞれの意志を「合格しよう!」「治ろう!」という目標に向かって導くことができると言じています。

私自身も卒業後は治療技術と知識向上のために、スポーツトレーナーの講習を受けました。また医学の歴史にも興味を持ち、現在も大学で勉強を続けています。学生には、当たり前の医療知識が当たり前でない時代の思いを少しでも伝えていきたいです。医療従事者を目指す人間として、志を高く持つほしいと思います。私は入学当

初から教員になりたいと漠然と思っていました。その思いを当時の先生が知り、専科教員になるための要件や試験について教えてくださいました。何も知らないかった私の思いを大切にしてくださったことに、本当に感謝しています。専門学校で学ぶのは3年間という短い時間ですが、こういった人ととの出会いが人生の方向性を変えたといつても過言ではありません。

学生の人生の一瞬に関わる仕事

これからは教員と治療現場の両方に軸を置きながら、もっと勉強を続けたいと思います。柔道整復師を目指す学生に、この資格の持つ歴史的背景を語ることで、柔道整復師のアイデンティティがはっきりするのではないかと考えます。治療の現場で患者さんが私たちに求める声を直接聞くことができるの、その一つ一つを治療家として乗り立つ学生に伝えていきたいです。

教員という職業は学生の人生の一瞬に関わる仕事で、それが喜びであり未来にどう影響していくのか楽しみに感じています。そして、いつまでも学生と共に学生生活を楽しめる先生でいたいです。



■教員・柔道整復師
大川学園 医療福祉専門学校
じょう鍼灸整骨院 勤務
高場彩さん



case
09

Kohei Fukaya
吳竹医療専門学校 [埼玉]
2012年卒業

いつの日かトレーナーとして、
スポーツチームに帯同することが夢。

トレーナー業務ができる
職場へ転職

もともと2年半接骨院で勤務し、業務をある程度学んだところで、昔からの夢であったトレーナー業務もできるスポーツクリニックに行きたいと決断しました。今の職場では毎日が勉強になっていますし、とても良い経験をさせてもらっています。私にとってはこの転職が大きな人生の転機になりました。現在の仕事は、大きく分けて診療の手伝いとリハビリ室での業務の2つです。診療の手伝いは診療を円滑に進めるために事前に予診をとったり、電子カルテの入力を行います。ドクターの診察に同席し、徒手検査の数値やXP・MRI等の結果、患者の主訴などを電子カルテに入力します。また、仕事には装具の装着、注射の補助、骨折・脱臼の整復、固定補助等もあります。そしてリハビリ業務は主にリハビリ室で患者さまの治療、物理療法やトレーニング指導を行います。当院にはフットサルのコート1面のグラウンドがあるので、そこでアスレティックリハビリテーションも行っています。

東京オリンピックにも関わりたい

専門学校時代に学んだことで今、役に立っていることはたくさんあります、私がもっと大事なことを感じているのは人との出会い、関わり方、コミュニケーション能力です。もちろん知識や技術も大事ですが、治療にあたっては何よりもコミュニケーション能力は必要不可欠だと感じています。私は現在、とても楽しく仕事ができています、自分の夢でもあったトレーナーの仕事もできていますが、まだ入職して2年半くらいなので、これからいろいろな経験を積み、勉強して成長していくことを、柔道整復師としても日々成長できるように何事にもチャレンジしていきたいと思っています。今後のキャリアプランとして、サッカーや野球のチームトレーナーとして帯同することが夢です。そして2020年には東京オリンピックがあるので、オリンピックに何らかの形で関わられるかなと思っています。

■柔道整復師
JIN整形外科スポーツクリニック 勤務
深谷昂平さん

2013年／整骨院で柔道整復師として勤務
2015年／整形外科で柔道整復師として勤務

History



case
10

Shinshiro Yazawa
日本柔道整復専門学校 [東京]
2014年卒業

明確なプランがあるからこそ、
高いモチベーションが保てます。

常に新鮮な臨床の意見を求めて

リハビリ室長として、骨折・脱臼の整復と急性外傷や慢性障害を持つ患者さんへの施術と機能改善が主な仕事です。患者さん一人ひとりに合わせた施術を提供し、よりライフスタイルに合わせたりハビリを組むことを意識しています。日頃から心掛けていることは、常に院内の安全を考え、患者さんの変化に気付くための広い視野を持つこと。そして、より多くの視点から患部を見てアプローチすることで、改善に向けてベストな選択することです。

広い視野と多くの視点を持ち、高い視座から状況を判断できるようになることで、患者さんだけでなく、一緒に働くスタッフも快適に働ける環境にしていきたいと思います。

医療の現場は日々変化していくので、学会などへの参加はもちろんのこと、疑問に感じたことや仕事で行き詰ったときは、先生や先輩、同期の仲間に意見を求めたりしています。また定期的に勉強会を開いて、情報の共有をするようにしています。

■リハビリ室長
かわにし整形外科クリニック 勤務
矢澤慎士朗さん



case
11

Takanori Murakoshi
東京柔道整復専門学校[東京]
2014年卒業

柔道整復の楽しさや素晴らしさを、
一人でも多くの学生に伝えたい。

可能性に満ちた接骨院業務

現在、私は専門学校附属の接骨院で働いています。その他、母校の専門学校で2年生に臨床実習の指導補助や授業時間外の学習サポートも担当しています。学生と接する機会が多いので、接骨院での業務をしっかりと伝えるよう心掛けています。柔道整復師を目指している学生に、今後の接骨院の可能性を感じ考えてもらいたいとの思いから実技を意識的に増やして教えることもあります。とにかく学生に接する際は、どんな生徒とでも真剣に真摯に対応すること大切にしています。

仕事以外の時間を利用して、様々な手技療法のセミナー、高齢者の生理学・運動療法セミナー、介護予防のトレーニングマシン勉強会、接骨院経営セミナーに参加し、新しい知識や技術の習得は積極的に行ってています。

実技の授業の大切さを実感

思えば専門学校時代に指導していた先生方の経験談が、実際に自分自身が臨床現場に立ちレギュラーな場面に出くわした時にとても役に立っており、落ち着いて対応できているのは、そのおかげだと思います。特に先生方の失敗談の方がリアリティがあり、現実的かなと思う時もあります。とにかく実技の授業での経験が、現在の施術の礎になっているのは間違いないかもしれません。

今後は柔道整復業界の発展のために、少しでも貢献できたらうれしいですね。学生に柔整の楽しさと素晴らしさを伝えられる授業、そして実践的な臨床実習を行えるよう努力していくたいと思います。



■柔道整復師
東京柔道整復専門学校附属
杏文接骨院 勤務
村越嵩紀さん



case
12

Fumiya Tomoeda
東京医療専門学校[東京]
2011年卒業

再現性の高い身体所見のために、
超音波画像観察装置を導入しました。

全スタッフの技量向上をめざして

東京都の板橋区内で鍼灸整骨院を2院、経営しています。院内では外傷に対する施術、鍼灸施術を行っています。また、外部活動として、地域のラグビーチームのケア活動や、少年野球チームの監督やコーチにケアの仕方や練習方法をアドバイスしています。

多くの患者さんの施術を行うにあたり、一人ですべてを行うことは難しいことです。また、患者さんが来院されるたびに各スタッフの判断や病態把握に対する説明が違うと信頼関係が損なわれてしまいます。そのため、外傷を的確に判断するため、必要に応じて「超音波画像観察装置」を使用しています。画像として客観的証拠を残し、スタッフで検討し合うことで、各スタッフの感覚的な判断ではなく、院全体としての判断・施術を提供できるようにと考えたため導入しました。そして、その検討会が自分でなく全スタッフの技量向上や、心身ともに負担がかからない身体所見や施術法の選択につながり、その結果、スタッフが継続して業務を行えると考えています。



■鍼灸師・柔道整復師
亀山整骨院 院長
友枝郁也さん



2004年／亀山整骨院でアルバイトとして勤務
2008年／鍼灸師として施術業務を担当
2010年／亀山整骨院分院長を兼務
2011年／柔道整復師の資格を取得し亀山整骨院で本院長を兼務

History

case
13

Yuki Warita
日本医学柔整鍼灸専門学校[東京]
2013年卒業

勤務先の理念に共感したからこそ、マネジメントも学んでいます。

すべては人との関わり合いに感謝

現在はエリアマネージャーとして4店舗を管理しながら、その内の1つの店舗で分院長として仕事をさせていただいております。現場では急性や亜急性の損傷に対する保険施術と、患者様に合った数々の自費治療も提案しています。そうすることでき患者様の状態が改善され、満足につながればと思っています。また幹部の一員として、弊社の社長が大切にしている想いをスタッフに浸透させるべく、仲間と共に奮闘しています。キレイごとに聞こえるかも知れませんが、いつも「感謝」の心を胸に抱いています。いま自分が働いている環境は、家族や仲間、上司や部下、そして多くの患者様によって創られたものであることは事実です。関わるすべての人へ感謝すること、相手に対する心配り、関わり合いの大切さ、徹底的に人にこだわること。それが社長から教えていただいたことであり、日々大切にしている想いです。

人を大きくする会社であり続けるために

私自身のスキルアップはもちろんですが、外部のリーダー研修や経営学のセミナーに参加させていただいたり、上司からのアドバイスを参考に心理学や人心掌握術についての文献にも目を通し、マネジメントする立場としての視点を養うようにしています。学生時代は実技の時間が多いため、実際に働いてからも即戦力で活躍できたと思います。現場で活躍されている先生方の授業は、些細なことも今では治療の大きな参考になっています。今後は勤めさせていただいているこの会社で、もっとスタッフのマネジメントを学びながら、人事採用担当のような仕事をていきたいと思っています。弊社の理念に共感してくれる仲間を集め、スタッフにとって快適な職場環境を作っていくんですね。「人を大きくする会社」であり続けるために、徹底的に人にこだわり私も全力で駆け抜けていきます。



■柔道整復師・エリアマネージャー
株式会社ゆうしん 和心接骨院 院長
割田 豊貴さん



case
14

Shintaro Fuchinoue
スポーツ健康医療専門学校[東京]
2007年卒業

大学でも通用できる人材として、将来的に医学修士の取得が目標です。

現場で役立つ貴重な実技体験の数々

現在、母校の教員として2年生のクラスの担任業務をしております。関係法規や骨折理論などの教科を中心に教鞭を取りながら、学園付属の整形外科・みどりクリニックで患者さんと接する経験も積んでいます。患者さん一人ひとりと向き合い、その声に耳を傾けることが大切であると同時に、個々の学生と真摯に向かい合い、それぞれの学生にやる気と力を引き出せるように心掛けて接しています。専門学校では解剖や生理といった理論的な学問だけでなく、即戦力となる実技にも力を入れています。実際に開業しながらその技術や現場での話を教えてくださる先生や、希望者が放課後に無料参加できるスポーツトレーナーセミナーやテーピングセミナー、カイロプラクティックセミナーでは最先端で活躍している先生から現場の技術や患者さんとの関係性など学べる機会が与えられています。こういった貴重な体験が現場に出てから役立つこと

を、学生にしっかりと伝えることも私の大切な役目だと思います。

学問を深めるためにステップアップ

私自身、柔道整復師の資格を取得後、鍼灸の必要性を実感し鍼灸科に進学。そして、さらに学問を深めるために大学院に進学しました。これからは教員としての職業をより充実させ、国家試験対策を徹底できるように専門科目だけでなく、解剖学・一般臨床医学・衛生学などの勉強を重ねていきたいと思っています。加えて、実技面での向上を怠らずトレーナー活動にも積極的に参加していきます。また学術的に論文の発表を手がけるなど、柔整界の向上にも貢献していきたいと思っています。将来的には医学修士を取得し、大学でも通用できる人材として力をつけていきたいですね。

■教員
スポーツ健康医療専門学校 勤務
渕ノ上 真太郎さん



case
15

Ryo Ikebara
東京メディカル・スポーツ専門学校[東京]
2017年卒業

礼節と好奇心を大切に、
柔道整復師としてスポーツに関わり続ける。

積極的に外へ出て、吸収し成長

院長を務める整骨院で、高校生の方からご高齢の方まで、週末に趣味のスポーツを楽しむされる方からアスリートの方まで、幅広い層の患者さまの治療やコンディショニングを行っています。また、フットサルチームに帯同しスポーツトレーナーとして活動しています。

院内の仕事は、患者さまの治療はもちろん、院の運営やスタッフの教育など多岐にわたります。また、専門学校等でスポーツトレーナーとして講義を行うこともあります。外の社会に出ることによって様々な方々と出会うことができ、その交流から得られるものが治療や院の運営に役立っていると感じています。

人と接することが好きな私は、何よりも「あいさつ」を大切にしています。スタッフや患者さま、外部で出会った方々に対して、心の込もったあいさつをすることを常に心掛けています。また、何事に対しても好奇心を持ち、常に新しいことを探し、積極的に取り入れたいと思っています。

専門学校での学びが今の土台に

専門学校在学中はトレーナークラブに所属しており、そこで活動を通して多くのスポーツ現場に足を運びトレーナーの仕事を肌で感じることができたことは、今の治療に活きていると実感しています。柔道整復師科とアスレティックトレーナー専攻で学んだ基礎的な知識や技術があってこそですが、学生時代にこの経験ができることが、国家資格を取得した後に整骨院やスポーツ現場にスムーズに適応できた理由であると言えます。今も休日を活かしてトレーナー現場やセミナーに足を運び、知識と技術を吸収できるよう努めています。

現在は整骨院勤務の傍らにトレーナー活動をしていますが、いつかは学生時代からの夢だったチーム専属トレーナーを目指してみたいと思っています。



■柔道整復師

株式会社 Lehua レファうめじま整骨院 院長
池原亮さん

2017年／レファうめじま整骨院 勤務
2019年／レファうめじま整骨院 院長

History



東京メディカル・
スポーツ専門学校
[東京]



case
16

Mikako Shimizu
日本工学院八王子専門学校[東京]
2019年卒業

患者様との距離感を大切に、
寄り添って歩んで行きたい。

スポーツの経験を活かして

現在、私はクリニックのリハビリテーション科に勤務しています。当院は内科・外科・小児科・整形外科など様々な診療科目があるため、リハビリテーション科には、急性外傷から慢性疾患まで色々な症状を持つ患者様がとても近くなりました。夢に向かって頑張っている学生をみると、自分も自ずと勇気が出てもっと頑張ろうと改めて思うことができました。

患者様と親身になって向き合ってコミュニケーションをとりながら、一人ひとりの症状を理解し評価を行っていきます。また診断結果やレントゲン写真及びCT・エコー画像の所見から、その方に合わせたリハビリメニューを組んで、物理療法・手技療法・運動療法を行い少しずつですが着実に痛みが減っていく所を間近で見ることができます、また支えていくことにとてもやりがいを感じています。実際に、スポーツで怪我をして骨折をしました学生にリハビリを行い、最初は全く歩けず松葉杖での生活から、最終的にまた現役復帰できるところまで回復した時はとても嬉しかったです。

私自身、学生時代バレー部に所属しており、整形外科に通院していた経験がある為、同じスポーツをす

る学生の患者様に対して当時の自分がいたらこういった時に先生にかけられたら嬉しい言葉や、やってほしいことを思い浮かべながら、同じ気持ちになつて治療するように心がけています。そうすることで、何でも相談してくれるようになり患者様との距離がとても近くなりました。夢に向かって頑張っている学生をみると、自分も自ずと勇気が出てもっと頑張ろうと改めて思うことができました。

女性であることの強み

また、クリニックには女性の方も多く来院されます。柔道整復師は男性が多い社会ですが、だからこそ女性であることを活かして、女性特有の悩みなどを気軽に相談して頂ける環境を作っています。患者様によって、痛みを取る治療に加えて婦人系疾患のアドバイスも同時にしていくことで、精神的ストレスも減り、信頼して頂けることも増えました。

こうした恵まれた環境の中で、医療人として沢山経験を積み、知識と技術を高め、今後も患者様に寄り添って歩んで行けたらと思っています。

柔道整復師

医療法人社団もかほ会
武蔵村山さいとうクリニック
清水美香子さん

History



日本工学院八王子
専門学校[東京]



case
17

Minato Fujita
日本健康医療専門学校[東京]
2013年卒業

様々な可能性を持った「柔道整復師」を育成し、ともに成長していきたい。

周りの支えの中で得た貴重な経験

大学では教員養成課程を学びつつ学生トレーナーとして活動していました。そんな中、医療資格を持った先輩トレーナーが活躍する姿に「自分もこうなりたい!」と憧れを抱くようになり、柔道整復師の道を志しました。専門学校では、人体の構造や内部疾患など学ぶことが想像以上に多く、辛く感じることもありました。しかし、学校の先生方が難しい箇所も噛み砕きながら教示してくださいましたし、一方で自らも専門書を必死に読むなど努力を重ねてまいりました。結果として大変ながらも充実した学生生活を送ることができたと思います。

国家資格を取得してからは、整骨院勤務のみならず、トレーナー活動、学校勤務など様々な経験を積ませていただきました。しかし、見慣れない疾患や症状に遭遇したときに対処に困窮することも多く、自分の至らなさに心が折れそうになったことも少なくありません。そんな時、やはり頼りになつたのは傍でずっとサポートしてくださった先輩方でした。

臨床の場から教育の場へ

たくさんの経験をさせて頂いた中で、柔道整復師には様々な可能性があることが分かるようになってきました。一方で、それが活かしきれていないう現状も目の当たりにしてきました。そんな現状に歯がゆを感じているうちに、次第に「志を持った学生達が柔道整復師として様々な世界で活躍していく!」…その手伝いができれば…という気持ちが強くなっていました。そして、教員資格を取得いたしました。この決意の裏には、先輩方の後押しがあったことも大きな理由です。

教育現場に出ると、柔道整復師として教育する前にすべき課題も多くあることに気付かれ、学生達との奮闘の日々です。学生達とともに基本から学んでいくうちに、臨床現場の時とは異なる目線で疾患を見ることができるようになったと感じています。基本を大事にしながら、色々な世界で活躍が出来るよう、私自身も日々成長したいと思います。



case
18

Ryo Sano
関東柔道整復専門学校[東京]
2018年卒業

患者様とその家族、スタッフも大切にできる接骨院の開業が目標です。

一人ひとりにオーダーメイドの施術を

現在、立川にある接骨院で柔道整復師として働いています。骨折、脱臼、捻挫といった急性外傷に対する施術のみならず、骨盤や頸部等に対する自費による施術なども行なっています。また、担当制となっており、患者様一人ひとりに対して、年齢、性別、既往歴や生活スタイルなどを考慮し、個々に最適な施術や指導を行っています。そして患者様の痛みや違和感を取り除くだけでなく、日々の生活を支えるパートナーでありたい…そういう気持ちで取り組んでいます。

仕事をしていく上で迷うこともありますですが、そんなときは原点に立ち戻り、学生時代の教科書やノートを見返すようにしています。臨床の場に立った今だからこそ、専門学校時代に学んだことの重要性が身に染みています。

独立開業を視野に日々勉強

職場では月に2~3回ほどセミナーを行っており、施術に関する事から経営に関する事まで幅広く勉強させて頂いております。キネシオテーピングの理論、実技や機能訓練指導に関する勉強など、現場ですぐに役に立つものが多く、スキルアップに繋がっていると実感しています。

この仕事を目指したところから接骨院を開業するのが夢であり目標でした。その夢を叶えるべく、現在は臨床経験豊富な先生や、実際に院を経営される先生方からたくさんの話を聞き、自分が開業したときにどのような接骨院にしていくかを常にイメージしながら日々の施術にあたっています。患者様とその家族の方、スタッフまで大切にできる接骨院の開業を目指しと、弛まぬ努力を継続していくつもりです。



case
19

Ayu Tamura
新宿医療専門学校[東京]
2017年卒業

ひとつでも多く経験を積むために、
仕事以外の現場にも参加しています。

接骨院とトレーナー活動を両立

現在、私が勤いている接骨院では基本的に担当制で患者さんを診ており、症状の経過など含め責任を持って担当しています。また、それ以外ではプロバスケットボールのチームでトレーナー活動をしており、選手のコンディションを管理しながら予防からリハビリまで行っています。主に練習前のテーピングや練習後のアイシングなど、アフターケアをしています。

このように接骨院とトレーナー活動を並行してできている環境には、とても感謝しています。両方で経験したことを両方に活かせるように、できる限り自分の技術を向上させて、患者さんや選手の皆さんに恩返ししていくたいですね。

この仕事をしていく上で知識を深めることはもちろんですが、経験を積むことも大切だと思っており、そういう機会があれば積極的に参加していました。その結果、少しずつですがネットワークもできて、小学生のサッカーキャンプに帯同したり、3on3のバスケットボールチームに帯同したりと、本業以外の現場に行く機会も増えました。この先も今のスタンスは変え

ずに、チャンスがあればどんどん経験を積んでいきたいと思います。

求めてもらえる場所で頑張る

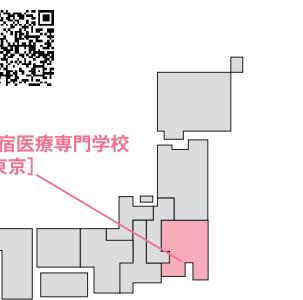
専門学校時代に国家資格を取得するため、嫌というほど身体の仕組みについて勉強しました。あの頃はただ資格を取得するための勉強だったかもしれませんのが、臨床の場に出るようになって、その知識の大切さが身に染みて分かるようになりました。患者さんや選手の身体に触る時に実感しています。

正直に言うとこれから結婚や出産ということになった場合、いつまで接骨院とトレーナー活動との両立を続けられるか分かりません。働く女性ならいつかは直面する問題かもしれません、だからこそできるうちは両立を続けていきたいです。接骨院には接骨院、トレーナーにはトレーナーの良さがあり、どちらの仕事も今はとても楽しいですから。仕事を楽しいと思えることは、ホント贅沢なことだと思います。将来的には開業や専属トレーナーといった道も考えたこともあります、求めてもらえる場所があるうちにその場所で頑張りたいと思います。



©TOKYO EXCELLENCE

■柔道整復師・トレーナー
東林間名倉堂整骨院・東京エクセレンス 勤務
田村 亜有 さん



case
20

Shuhei Kato
アルファ医療福祉専門学校[東京]
2019年卒業

専門学校時代で得たかけがえのない経験が糧となっています。

学ぶ環境で自己研鑽の日々

現在は整骨院で勤務しています。主に患者様の治療、リハビリテーション、トレーニングなどをメインに行ってています。患者様の症状に合わせ、どのような治療が適切かを考え、日々勉強に励んでいます。経験豊富な先輩や、様々な勉強会などがあり、たくさん学べる環境で働かせてもらっています。

仕事をする上で一番大切にしていることは、患者様とのコミュニケーションです。現在の身体の状態をしっかりと聞き、症状に対して的確な治療をすることが肝心です。怪我のせいでスポーツを諦める人たちを少しでも減らしていくように、正しいトレーニング、治療を提供できる柔道整復師を目指して頑張っています。

スポーツ選手の支えになりたい

専門学校では授業で学んだことだけではなく、人と人との繋がりの大切さを教えていただきました。学生の年齢層も幅広く、専門学校に入学するまでは経験したことのない環境でしたが、その経験のおかげで幅広い年齢層の方とのコミュニケーションがとれるようになりました。今にも活かされています。

■柔道整復師
株式会社爽健グローバル 笹塚整骨院 勤務
加登 修平 さん



case
21

Kousuke Mishima
東京医療福祉専門学校[東京]
2016年卒業

「よき医療人」の心と技術があれば、
日本全国が活躍の舞台になる。

医療の力で選手を支える人に

中学生の頃、野球部でピッチャーをしていた時に肩を壊してしまい、顧問の先生に整骨院に連れていってもらったことが、この仕事と出会うきっかけでした。

担当の先生の手技と電気治療により再び投げられるようになったことに驚いたのを覚えています。高校でも野球は続けたのですが、またもやケガをしてしまいました。そこで「選手」ではなく「選手を支える人」になりたいと思いを切り替え、医療の道に進むことを決意しました。

誰もが考えると思いますが、最初にイメージした職業はスポーツトレーナーでした。

が、自分としては医療系のしっかりした技術と資格を兼ね備えることができれば、もっとアスリートの役に立つ

ことができ、就職にも強いのではないかと考えました。

様々な柔道整復師養成校を訪ね歩いた中で、「安心して学べる」と実感できた東京医療福祉専門学校を選択しました。

宜野湾の人々に貢献したい

卒業直後は、自宅に近い千葉県内の複数店舗に勤務するとともに院長経験も積み、入社4年目の現在は、沖縄の「宜野湾うちどまり整骨院」の院長を務めています。今の目標は、患者様から愛される「よき医療人」たるスタッフ育成ができる院長になること、そして「宜野湾うちどまり整骨院」を沖縄県ナンバーワンに創り上げていくことです。

高校野球強豪校の本拠地、宜野湾に院長として配属されたことは幸運だったと思います。小学生や中学生など身体成長期にある野球選手のケアを図りながら、スポーツトレーナーとして野球に関わる高校生や社会人のパフォーマンスアップにも携わっていけるからです。

「選手を支える人に」の思いを、ここ沖縄で実現したい。宜野湾の方々、野球に関わる方々の健康に寄り添っていけるよう、これからも努力していく



■柔道整復師

株式会社クラシオン
宜野湾うちどまり整骨院 院長
三島 康佑 さん

History

2016年／成田公津の杜整骨院 勤務
2018年／八千代大和田整骨院 院長
2019年／宜野湾うちどまり整骨院 院長



case
22

Daisuke Sakai
吳竹鍼灸柔整専門学校[神奈川]
2012年卒業

自分にしかできないことを摸索し、開発したのが「投球リハビリ外来」です。

野球に特化したリハビリを

現在は脱臼、骨折、捻挫、打撲、挫傷といった柔整業務を中心に、スポーツに特化した接骨院として、様々な症状を「治す」ことを目標に日々の業務にあたっています。その中で当院では「投球リハビリ外来」という独自のプログラムを作り、投球障害を予防するための投球動作指導を行っています。

私は院長として、また、この「投球リハビリ外来」の設立者として、一般の方から学生、スポーツ選手まで、年齢や種目を問わず、幅広く施術しています。仕事上で心がけていることは志を持つこと。「投球リハビリ外来」というプログラムも自分自身の競技経験を活かして、自分にしかできない仕事は何かということを摸索した結果、生まれたものです。柔道整復師は患者さんの人生に関わる仕事ですので、正面からきちんと向き合い、目の前で困っている患者さんを本気で何とかしてあげたいと思う強い気持ちを常に意識しています。

夢は投球障害専用の施設づくり

私は知識はとても大切だと思っていますが、どんな勉強よりも本気で向き合った時間の積み重ね、つまり経験に勝るものはないと思っています。現場で患者さんに正面から向き合い、感じ、学ぶこと、この積み重ねが大切だと考えていますので、休みの日に河川敷の野球場に行き、患者さまが所属する野球チームの試合や練習を見に行き、治療中に自分が感じたことや実際の動きやケガの程度を自分の目で確認しに行ったりしています。これからは「投球リハビリ外来」を全国的に普及させるために情報発信を強化していきたいと考えています。そして次のステップとしては「投球リハビリ外来」を中心とした投球障害を予防するための専用の施設を作ること。投球障害を減らし、一人でも多く投球障害で苦しむ選手を救い、そして選手の未来を投球障害から守ること、こうした「投球リハビリ外来」のコンセプトを実行できるよう活動を広め、さらに全国の指導者、保護者の方々に情報発信をするのが今的目标です。

■柔道整復師

むさしなかはら接骨院 院長
酒井 大輔 さん



case
23

Takaaki Suzuki
専門学校 浜松医療学院[静岡]
2008年卒業

自分のやりたいことができない。
その気持ちが大きなバネになりました。

挫折から始まった柔道整復師1年目

現在は柔道整復師として接骨院の院長をしています。急性疼痛と機能障害の方に対して保険施術の提供と、疼痛や不調に悩まされないための身体のメンテナンスができる自費サービスを提供しています。また、急性の強い疼痛と歩行困難の方には、往診での施術を行い、在宅の利用者様を支えています。当院では治療はもちろんですが、リラックスも提供できるように心掛けています。私の場合は、挫折からスタートしたと言えるかもしれません。整形外科に勤務していた1年目は、リハビリテーション業務で多くの運動器疾患を診ていました。しかし、2年目になると他職種の方が入社し、業務内容が激変し我慢するようになりました。当時の私は耐えることができずに、その勤務先を辞めてしまいました。他の職種と連携が取れないことや、自分のやりたいことができないという「悔しさ」「情けなさ」「無力さ」を感じたのが原因です。ですが今考えると、それが大きなバネになったのかかもしれませんね。

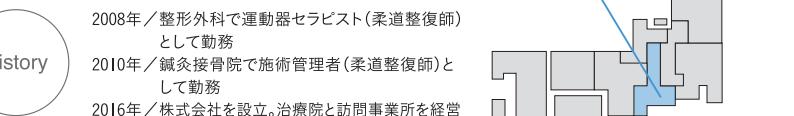
地域連携型の
新しい治療院を目指して

専門学校時代に学んだ座学と実技の授業は、すべてが初めての内容ばかりでした。分からないことや難しいことに対し、とにかく勉強と練習をすることで壁を乗り越えて成長する楽しさを学びました。その時代があったからこそ、今も技術と知識の鍛錬は欠かさずに行っています。施術者として、人として、その精神の根幹は専門学校が教えてくれたと思っています。挫折から始まった私ですが、今後は地域連携型の治療院として多職種の方々と一緒にになって、利用者様を支えていく「包括ケアシステム」を導入した治療院を目指しています。利用者様が住み慣れた地域で、自分らしい暮らしができるように支えることがコンセプトです。市町村と共同で機能訓練指導員として「介護予防・日常生活支援総合事業」のサービスを請け負い、治療・癒し・介護予防を提供できる総合治療院にすることを目標に、新たな取り組みを始めています。



■柔道整復師
株式会社まるすずケアサービス
まるすず鍼灸接骨院・
訪問マッサージ院 院長
鈴木敬章さん

2008年／整形外科で運動器セラピスト(柔道整復師)として勤務
2010年／鍼灸接骨院で施術管理者(柔道整復師)として勤務
2016年／株式会社を設立。治療院と訪問事業所を経営



History

case
24

Miyuki Shimizu
米田柔整専門学校[愛知]
2016年卒業

自分が理想とする柔道整復師に
今は少しでも近づきたい。

専門職の方と一緒に働く場所

私が勤務している病院での業務は、主に3つに分かれます。1つ目は整復・固定業務。医師の指示のもと骨折や脱臼の整復や、急性外傷の固定業務です。患者さんの状態に応じて、ギブス固定・プライトン固定・アルフェンス固定など様々です。次にリハビリ業務。理学療法士と一緒にリハビリを行います。手術後やスポーツ外傷、変形性関節症など様々な疾患の方に対応します。最後が診察の手伝いになります。医師の診察前に患者さんから所見を伺ったり、医師の所見をカルテに入力したりと病院の業務が円滑に進むようサポートしています。病院は医師や看護師の他にも、理学療法士や放射線技師などの専門職の方と働くことができる場所なので、どのような考えをそれぞれの方がもっているのか積極的に聞くようしています。来てくださった患者さんの負担をできるだけ小さくするために、スタッフと協力できるように心がけています。

患者さんの気持ちに寄り添いたい
私自身、学生時代に部活に所属していないなかったので、休日にはバドミントン



■柔道整復師
米田病院 勤務
清水美雪さん



case
25

Natsuki Taguchi
中和医療専門学校[愛知]
2014年卒業

自分にいちばん合う形で、地元の医療に貢献することが目標です。

医療と介護を学べる勤務環境

仕事をする上で「患者さんに関心を持つこと」をいつも心掛けています。患者さん個人の生活の質・性格など異なる部分を考えつづリハビリしていると、運動の強さや回数、触診の仕方、習慣化するための運動やストレッチ、通院の頻度、患者さん自身が考える回復のゴールなど求めることは様々です。1つの病態を治すための技術の向上や知識の習得は重要ですが、自分の技術の押しつけではなく、個人に合うリハビリを選択できるよう私自身の引き出しを多くすることを大切にしています。

私が勤めている整形外科では、デイサービスとケアマネセンターが併設されています。デイサービスを利用する上での介護の知識や、ケアマネジャーの方のケアプランの進め方、介護の実情など多くの話を聞くことができ勉強させてもらっています。さらに理学療法士の先生から訪問リハビリの重要性や、外来の患者さんより多くの身体障害を抱える利用者の方へのリハビリなど、仕事以外でも別の視点で医療と介護を学ぶことができています。



■柔道整復師
丹菊整形外科 勤務
田口菜月 さん



中和医療専門学校
[愛知]

case
26

Seiya Shimada
名古屋医健スポーツ専門学校[愛知]
2016年卒業

柔道整復師として、社会に羽ばたけるように手助けをしたい。

教えること、理解してもらえることの楽しさから教員への道へ

スポーツに関わる仕事がしたいと思い、名古屋医健スポーツ専門学校に入学しました。卒業後は、整形外科や接骨院などに勤務しながら、母校にも勤務して体験入学や学校説明会などの仕事をしていました。その中で、教えることの楽しさや、理解してもらえることの楽しさが次第に強くなり、教員を目指すようになりました。

母校の附属接骨院に勤務しながら、教務などの業務にも従事し、昨年ようやく念願の柔道整復師専科教員の免許を取得。現在は、柔道整復科の教員として、1年生の担任をしています。右も左もわからない1年生に対して、教員も医療人としての誇りを持って学生を引っ張っていくように、日々の業務に従事しています。また、関係法規の授業や国家試験の対策も担当しています。

学び続けることで、学生から信頼される教員・柔道整復師になりたい

柔道整復師として社会に出てから一番役に立った感じたのは、専門学校在学中に学んだ「解剖学」です。患者様にケガをしている部分が何なのか、分かりやすく説明するには、自分が体のことを深く理解していることが大切だと感じました。臨床現場での経験も大事ですが、その根底には「解剖学」などの基礎知識があることを改めて実感しました。

今後の目標としては、学生から教員としてだけではなく、柔道整復師としても信頼される教員を目指していくたいと思います。そのためには、国家試験に関わる「柔道整復学」や「解剖学」などの基礎知識はもちろんのこと、柔道整復師としての技術も日々向上させていきたいと考えています。また、学生が柔道整復師として、社会に羽ばたいていくよう、手助けのできる教員になりたいと思います。



■柔道整復師
名古屋医健スポーツ専門学校 勤務
嶋田征矢 さん



名古屋医健スポーツ
専門学校[愛知]

case
27

Kazuki Kubota
北信越柔整専門学校【石川】
2016年卒業

ずっと地元で愛され続ける、
そんな存在の接骨院が理想です。

柔道をやっていたから
目指した職業

もうすぐ開業して30年を迎える、父の接骨院に勤務しています。親に憧れたというよりも、自分自身が小さい頃から柔道をしていて、その中で柔道整復師の存在を知り、興味を持つようになりました。自分がケガをした時の体験も大きかったです。現在は接骨院での仕事はもちろんのこと、全日本柔道連盟公認指導員の資格を活かして接骨院2Fの柔道場で少年たちに柔道を教えています。治療にあたっては、現在勤務する院長先生の患者へのアプローチ(初検時の判断、施術プラン、手技、徒手整復など)と、先輩柔整師の患者さんとの接し方を参考に、模倣からオリジナルになるよう心掛けている。また患者さんのメンタルケアも大きなテーマとして日々取り組んでいます。専門学校時代の同期との勉強会や各種講習会、他業種との意見交換会にも積極的に参加しています。同期との勉強会はとても刺激になりますし、医師など違う職業の方の意見を聞くことで、視野も広がり施術に活かされていると思っています。

一歩一歩、背伸びせずに技術向上

専門学校時代に、医療全般の知識を高度医療の先端の教授陣から学べたことは、日々の臨床を行う上で判断材料のひとつになっています。また実技実習では整復術や包帯法など直ちに臨床で使用できるものばかりで、いま思っても経験してよかったという印象があります。これからは一般臨床医学の研鑽と柔整実技の技術向上、患者に寄り添った地域医療の貢献を念頭に置いて、一歩一歩、上を目指していきたいと思います。柔道の国際大会にトレーナーとして帯同しており、これからも柔道整復師として、柔道指導者として、両方の立場から選手たちにアドバイスをしていきたいと思います。このような活動を通してスポーツ活動の普及と拡大、地域の健康増進に寄与できたらうれしいですね。とはいっても、親の経営する接骨院をスポーツ外傷ケアに特化した接骨院にするととも、もっと多角化していくことは考えていません。ただ生まれ育ったこの地元で、地域のみなさまにずっと愛される存在にしていきたいですね。

■柔道整復師
窪田接骨院 勤務
窪田和樹さん



case
28

Yujiro Nagao
京都医健専門学校【京都】
2015年卒業

「超高齢化社会」に備えて、
地域や社会に貢献していきたい。

柔道整復に複数資格を
組み合わせて

柔道整復師の資格を取得した後、父の経営する接骨院に就職しました。1年間働きましたが、一度外に出て勉強したいと思うようになりました。鍼灸・あん摩マッサージ指圧の資格を取得する為に、東京の専門学校へ進学。

3年間の東京生活。専門学校へ通いながら、鍼灸・マッサージ・柔道整復も学べる鍼灸整骨院で勤務しました。鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師の資格を取得後は、父の経営する接骨院に復職。現在は、柔道整復師として、急性外傷に対する施術を行っています。

本院では、年齢層は保育園児から90歳までと様々ですが、スポーツをされている患者様が多く来院される特徴があります。その為、外傷性の症状に対して、超音波観察装置を用いて患部の状態を客観的に観察し、的確な判断・施術を行えるよう心掛けています。外傷以外の痛み、身体のメンテナンスは、鍼灸・マッサージの施術を取り入れた施術で対応し、またケガをしない体作りも目指して施術を行っています。

患者様に的確な判断で、
施術をしたい

母校では学業はもちろんのことですが、他の学校より身だしなみや挨拶等、社会人としてのマナーに厳しく指導を受けました。ただ学生時代は理解できませんでした。しかし、社会に出てからは、その大切さに気付くことができました。

今後、柔道整復師としては、さらに超音波観察の技術向上に励み、外傷に対して的確な判断をし、患者様に適切な施術を施せるよう努力していきます。そして、この施術の流れを接骨院のスタンダードになるよう京都から発信していきたいと考えています。

鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師としては、院内の施術だけではなく、これから訪れる「超高齢化社会」に備え、訪問鍼灸・マッサージも視野に入れ、地域や社会に貢献できればと思っています。

■柔道整復師・鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師
長尾接骨院 勤務
長尾裕次郎さん



case
29

Yuriko Matsumura

関西医療学園専門学校 [大阪]

女性柔道整復師がもっと活躍できる、
その現場を増やしていきたいです。

女性の視点を活かしたケアを充実

現在、私は整骨院と美容サロンを経営しています。女性の患者さんを対象にケガの治療だけでなく、日々の身体のコンディショニングをします。施術内容には実費負担になってしまうのですが、骨盤矯正や産前産後ケア・アロマトリートメントなども組み込んでいます。最近では妊婦さんでも通える治療院も増えてきましたが、まだまだ少ないのが実情です。当院は妊婦さん専用の姿勢改善や足のむくみや腰痛などの治療も行います。ただ施術して終わりではなく、再発予防のためのストレッチやトレーニングなど細かいアドバイスもしています。

生み出したい

今の資格以外にもアロマリートメントやフェイシャルの資格も勉強して取得しました。また妊婦さんを対象とした施術を行うために、産婦人科や助産院の先生のお話を聞きに行ったりもしました。独学ですが産婦人科疾患や妊娠周期の不調やトラブル、妊娠中の禁忌なども勉強しました。月に1回程度はアロマクラフト作りや姿勢改善法などのイベントも実施。患者さんとの交流・信頼関係を築く取り組みも積極的に行ってています。

これからは女性の強みを活かし、女

女性柔道整復師の魅力の一つとして、女性の患者さんの気持ちを理解して寄り添うことができるということがあります。精神的なケアもこの仕事の大重要な要素なので、女性同士だからできる悩み相談や心の苦痛を引き出すように心がけています。そして常に新しい情報や技術、知識を取得するようアンテナを張っています。自分自身が充実して毎日を過ごすことで、周りの人たちを幸せにできたらいいなと思っています。

女性柔道整復師の活躍する現場を増やしていくたいですね。この整骨院を基盤とし、併設のマタニティ専門院や小顔専門サロンなど美容の方でも活躍できたらうれしいです。マタニティケアは産婦人科や助産院と提携し、さらに深く妊婦さんの身体をケアしていくたいです。そして独自の治療法や健康法を生み出し、たくさんの人たちの美容や健康のサポートができる場所を作っていくたいです。



脛骨院と美容サロン経営・柔道整復師
TOTAL BEAUTY SALON Airy Body 代表
小村有利子さん



医療学園
学校[大阪]

Maika Ishikura
明治東洋医学院専門学校[大阪]
2017年卒業

女性ならではの視点も加えて、患者様に寄り添い、代々続く整骨院を継承したい。

患者様に寄り添うために
できること

父が経営・院長を務める整骨院で、柔道整復師として働いています。祖父の代から50年続く整骨院ということもあり、今も包帯を多く使用しています。基本の巻き方はもちろん、綿包帯と伸縮包帯の使い分け、固定具の作り方や使用方法はとても勉強になります。また急性期の患者様の対応もあります。痛みを抱えて来院される患者様の治癒の手助けがいかにできるか、施術に加え自宅でもできるセルフケアのアドバイスなどもしています。

患者様の施術について細心の注意を払うのはもちろんですが、より多くの情報をお話しいただくために、楽しく会話ができるような話題作りも考えながら応対をしています。また自分が女性なので、小さなお子さま連れの女性が来院しやすいような雰囲気作りも心掛けています。

今も続く“学び”が道を切り拓く

専門学校時代に経験豊富な先生方から学んだこと、特に授業中に話された雑学などが、患者様からの質問に役立っています。また私の受講していた「アスレチックトレーナー養成講座」では栄養学も学ぶことができたので、食事のアドバイスもできるようになります。現在整骨院で勤務しながら、アメリカンフットボールのクラブチームでトレーナーとしても活動しています。テーピングやボディケア、トレーニングや食事のアドバイスなども行っています。整骨院では遭遇することの少ない、ケガの発生した瞬間の処置や選手個々に合わせたテーピングなどを日々学んでいます。

今後は、現在勤務する整骨院でさらに多くの技術と知識を身につけ、女性ならではの視点も大切にしながら、患者様に寄り添いたいです。そして、院長として祖父の代から続く整骨院を迷がることが私の目標です。



■柔道整復師
岡本柔道整骨院 勤務
石倉舞香さん



明治東洋医学院
専門学校[大阪]



case
31

Hiroaki Kawai
平成医療学園専門学校[大阪]
2005年卒業

今後は運動分野での事業展開が目標。
また後進の育成にも尽力していきたい。

立てた目標は30歳までに開業

現在は自身が経営する接骨院にて施術を行っています。また週末は地域のスポーツ活動のトレーナー、中でも特にサッカーチームに帯同しています。もともと入学当初より開業したいという意志があり、資格取得後の30歳までに開業を目標にしました。卒業後3年間、実際の現場で様々な経験を積ませていただきました。Jリーグのガンバ大阪にトレーナーとして派遣され、一流のアスリート選手に囲まれながらのトレーナー経験も大きな自信になったと思います。そして当初の目標より少し早かったのですが、思い切って開業しました。あらかじめ目標をしっかり決めていたからこそ、不安もありましたが決断できました。

学生時代の級友や授業は財産

卒業してから10年以上経ちますが、今でも専門学校時代の級友と交流しています。そこから得る情報により、新たな分野にも取り組んでいます。また医療分野での基礎知識は、卒業後の今でも様々なセミナーで活用できています。在学時はあまり好きな科目ではありませんでしたが、解剖、生理、柔整理論は非常に大切だと実感しています。

今後は予防という観点から「少子高齢化の時代にいつまでも自立歩行を続ける」をテーマに、特に運動分野での事業展開を考えています。またスポーツの分野においても、一人でも多くの世界に通用する選手のサポートができたらうれしいですね。社会保障が厳格化していく中、後進の育成も含め、柔道整復師という立場が地域医療の一つとして認知されるように貢献していきたいと思います。



■柔道整復師・スポーツトレーナー
奈良接骨院 院長
川合宏明 さん

2005年／平成医療学園専門学校に柔道整復師として勤務
同校より派遣されガンバ大阪にてトレーナーとして活動
2008年／接骨院を開業し接骨院経営と並行して
スポーツトレーナーとしても活動

History



平成医療学園
専門学校[大阪]



case
32

Tatsuya Saragai
森ノ宮医療学園専門学校[大阪]
2010年卒業

自分の思う理想の医療を行うために、
開業という選択肢を選びました。

理想の柔道整復師になるために
複数の職場に勤務

専門学校を卒業してからは大阪の整骨院で柔道整復師として勤務し、2016年に整骨院を開業しました。開業するまでは、専門学校時代に決意した理想の柔道整復師になるために、必要な診察や治療技術を身につけることのできる複数の職場を選びました。それぞれの職場で、様々な視点から患者さんの状態を診ることを学びました。そして自分が思う理想の医療を行うために開業という選択肢を選びました。

今後の目標は、医療水準の整っていない地域での活躍です。外科や内科領域の支援はありますが、整形や柔整領域の支援は少ないように感じるので、自分の経験や技術をそといった地域に広める活動をしたいと思っています。そういう活動を通して、業界の認知度を上げていきたいですね。その中で、私と同じように柔道整復師を目指す人が増えたらいいなと考えています。

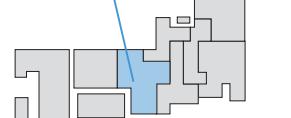
■柔道整復師
さらがい鍼灸整骨院 院長
皿海辰也 さん

2009年／大阪市内の整骨院で柔道整復師として勤務
2012年／豊中市内の整骨院で柔道整復師として勤務
2016年／さらがい鍼灸整骨院を開業

History



森ノ宮医療学園
専門学校[大阪]



case
33

Hiroki Sugimoto
履正社国際医療スポーツ専門学校[大阪]
2016年卒業

公財)日本体育協会認定AT(アスレティックトレーナー)
の資格を活かし、スポーツの現場でも
活躍したい。

投球障害などをテーマにした
様々な研修会に参加

現在は、外来患者のリハビリテーションや高齢者に対しての機能訓練指導を行っています。また、医師・看護師と多職種連携を行い、病歴や既往歴などを聴取するアヌムネーゼや入院患者に対する回診など、病院特有の業務にも参加させていただいている。病院勤務では急性期の外傷に遭遇する機会にも恵まれ、様々な経験を積むことができる環境にあり、日々臨床知識を身につけることができるよう心掛けている。また、野球をしている患者を担当することも多いので、投球障害についての研修会等へ積極的に参加しています。当病院では柔道整復師以外にも理学療法士(PT)や作業療法士(OT)が勤務していますので、PT・OT各分野の勉強会にも参加しています。

仕事の中で基礎知識の
重要性を実感

学校でしっかり学んだ解剖学や柔道整復学は本当に役立っています。病院では骨折・脱臼等で来院される方が多いので、徒手整復を経験させていただく機会に恵まれていますが、部位の方向や整復法といった解剖学や柔道整復学の理論と知識がなければ、現場では力を発揮することができません。学生時代に習得した基礎知識の重要性を実感しています。現在多くの症例を経験し、様々なケガに適した整復法や固定法を身につけることができるので、将来はアスレティックトレーナー(日本体育協会公認)資格を活かして、スポーツ外傷・障害への治療に携わり、柔整ATとしても活躍することを目標に、日々の業務に励んでいます。

■アスレティックトレーナー
医療法人富田浜病院 勤務
杉本広樹さん



履正社国際医療
スポーツ専門学校
[大阪]



case
34

Yuji Kogita
近畿医療専門学校[大阪]
2015年卒業

評判のよい整骨院への訪問・見学で、
卒業後に気づいたこと。

一番の失敗は何もしないこと

現在は整骨院長として、会社幹部として、いかにスタッフに楽しく働いてもらえるか、いかに成長してもらえるかという観点から人材育成に力を注いでいます。また、空手日本代表、現・世界チャンピオンである荒賀龍太郎選手の専属トレーナーとしても活動しています。

仕事に関しては、期限を決めて目標設定することにしています。私は入社3日目に「3年後院長になる」と、先輩社員の方に意思表示をしました。そうすると自然と周りの人々にサポートしていただくことが多く、自分の力だけではクリアできないことも、おかげさまで次々と目標を達成することができました。目標を明確にし自分の想いを公言すると周りの人の協力が得やすいことを学びました。一番の失敗は、何もないことと自分に言い聞かせて根拠のない自信を持つて行動を続けたことが、たくさんの成功体験に繋がりました。分からぬことは人に聞くこと。それも出来る人に聞くほうが、自分で考えるより成長のスピードが早くなると思い実践していましたね。日々の仕事以外では「スポーツ活法」や「施術家養成塾」に

通ったり、自社や他社でも評判のよい整骨院へ訪問・見学も頻繁にしていました。スキルを磨いたり追求することも大事ですが、それをどのように患者さんに伝え、どう理解していただけるかの方がもっと大事だと私は思います。

これからは経営者の
視点で人材育成

学生時代にトレーナー活動の現場で実技で学んだ包帯やテーピングの知識や技術、解剖学の授業での骨や筋肉に関する知識は、今も現場でサポートしていただくことが多く、自分の力だけではクリアできないことも、おかげさまで次々と目標を達成することができました。目標を明確にし自分の想いを公言すると周りの人の協力が得やすいことを学びました。10年後には10店舗を目標に、最強の組織を作れたらうれしいですね。人が育つ仕組みづくりや、スタッフ全員で目的・目標に向かって楽しく行動できる環境を提供します。2020年の東京オリンピックで、空手の荒賀龍太郎選手の金メダル獲得に貢献するという大きな目標に向けて頑張っています。

■整骨院長
株式会社KMC 勤務
小北悠司さん



近畿医療専門学校
[大阪]



履正社国際医療
スポーツ専門学校
[大阪]



近畿医療専門学校
[大阪]

case
35

Kazuma Haruki
東洋医療専門学校[大阪]
2014年卒業

自分に関わる人たちが 幸せになれるように貢献していきたい

患者様に必要な情報を正確に
提供したい

現在、一週間のうち3日は整骨院に勤務し、残り3日は会社の契約先でもある病院に出向しています。整骨院では、施術・患者様の競技復帰や日常生活への復帰などを目的としたリハビリ指導、クライアントの要望に合わせたパーソナルトレーニングなどを行っています。病院では、主にスポーツ選手の手術後から競技復帰までのアスレティックリハビリテーションを担当し、トレーニング指導を行っています。

仕事では、患者様の状態を正確に把握し、本当に必要なことを提供するように心掛けています。特に手術後のアスレティックリハビリテーションでは長期間にわたるため、現状説明と競技復帰までに達成しなければならないことを明確にして、お互いの理解を深めていけるように努力しています。

知識や技術の他に
人間に対する理解も深めたい

専門学校では、仕事で必要な知識を身につけられたことはもちろんですが、実際にスポーツ現場で働く先生に実習として帯同させていただいたことが、特に役立っています。そして、その時に改めてスポーツに関わる仕事がしたいという思いが強くなり、明確な目標ができたからこそ、今も情熱を持って仕事ができていると思います。また日々の仕事や読書を通して、人間に対する理解を深める必要性を思い、専門分野の講習会や心理学のワークショップなどにも参加。長いリハビリを乗り越えるために必要なモチベーションや目標設定を明確にする必要性にも気づきました。

今後は、自分に関わる人たちが幸せになれるように力になることが、使命だと考えています。そのためには、専門分野の知識や技術のほかに、もっと人間に対する理解を深め、多角的な視点から人々の幸せに貢献できる人間を目指していきたいです。



■柔道整復師
にしおか整骨院 勤務
春木一真さん



東洋医療専門学校
[大阪]



case
36

Yuna Fujishita
関西健康科学専門学校[兵庫]
2015年卒業

親しみを持ってもらえる、 整骨院の開業を目指しています。

人に指導する立場でも勉強中

現在は整骨院で働いており、院長先生のもと、スポーツをしている中の捻挫や打撲、その他急性外傷に対しての治療を行っています。また、休日には小学生の陸上教室のトレーナーとして活動しており、ウォーミングアップの仕方や運動方法などの指導を行っています。今まで一番心がけたことは、患者さんとのコミュニケーションです。治療をする上で、初検の方でしたらまずは問診から入りますが、患者さんとの信頼関係を築けないと患者さん自身も不安になりますし、その不安をどれだけ取り除けるかというのが治療効果にも影響しますので、常に意識するよう心がけています。患者さんとのコミュニケーションで悩みがある時は、問診向上勉強会などに参加しています。もともとはスポーツトレーナーを目指していたこともあり、また学生の頃の陸上競技をしていた経験を活かし、「人に指導する」という場で私自身が勉強させていただいている。教えることというのは、単に知識を詰め込めばいいというものではなく、難しいですがその分やりがいを感じています。

学生時代のトレーナー体験を
活かして

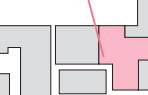
専門学校時代に学んだことでとくに役に立っていることはトレーナー活動です。私の母校では2年次より選択授業があり、その中で私はスポーツトレーナーコースを選択していました。実際にアメリカンフットボールのトレーナーや、他の大学でさまざまなスポーツのトレーナー活動を経験しました。そこではテーピングの仕方や現場で使える療法やストレッチなどを学びましたが、現場で学んだことを今でも治療に活かすことができています。今後はトレーナー活動をしつつ、整骨院開業を目標にしています。まだまだ学ぶことが多い私ですが、開業するにあたっては地域に貢献できるような整骨院、親しみを持ってもらえるような院を開業できたら嬉しいですね。患者さんが心も身体も気持ちよく日常をくれるように、少しでもお手伝いができるばと考えています。



■柔道整復師
杉田整骨院 勤務
藤下侑奈さん



関西健康科学
専門学校[兵庫]



case
37

Kazuhiko Yoshida
朝日医療大学校[岡山]
2007年卒業

私の施術を求める患者さんが増え、
目標だった開業を決意しました。

学生時代から目標だった

独立開業

整骨院の院長として、患者さんの施術を行いながら、休憩時間を活用し生活支援通所サービスも実施しています。その他、県内で開催されるスポーツイベントにトレーナーとして参加したり、施設や地域の奉仕活動として介護予防の指導や講話をを行うなど、ボランティア活動も行っています。私の場合、学生時代から先ずは団体に所属している先生の元で修業し、いつかは開業をと心に決めていました。柔道整復師として日々修業する中で、トレーナー活動にも積極的に参加していました。そういう経験を重ねていく中で、そのトレーナー活動の現場や整骨院で施術に当たった患者さんが、私の施術を求めて来院してくれる機会が多くなったことが、開業のきっかけとなりました。

今後は後輩の育成も 大切な仕事

私の学生時代は、国家試験に合格することだけでなく、トレーナーや講習会に参加し多くの先輩先生方から施術の技術や医療人としての考え方を学ばせていただきました。また、その中で卒業後の身の振り方や団体に所属することの大切さを知りえたことは、私のキャリア形成の基礎となっていると思います。今後は柔道整復師として自らの研鑽に努めるだけでなく、これから学校を卒業する後輩の模範になるような施術者となり、後輩の育成も力をそそぎ、業界全体の発展に貢献していきたいと思います。



■柔道整復師
和鍼灸整骨院 院長
吉田和彦さん

2007年／整骨院で柔道整復師として勤務
2012年／整骨院を開業し、鍼灸院も併設

History



朝日医療大学校
[岡山]

case
38

Yoshiki Otani
IGL医療福祉専門学校[広島]
2013年卒業

父と仕事をするという目標に向けて、
ただいま一人で奮闘中です。

独立を後押ししてくれた父の言葉

まだ開業して間もないで、受付・接客・施術まで一人で行っています。治療にあたっては患者さん一人ひとりに合った施術を行い、痛みを和らげ今まで通り日常生活を送れるようにサポートしています。正しい身体の使い方やアフターケアの指導をすることで、痛みを再発させない身体作りを目指しています。また必要に応じて、鍼灸や吸玉など東洋医学からのアプローチも行っています。この仕事を始めたときから、いつかは独立開業が目標でした。今までに3店舗の整骨院で勉強と経験を重ねて来て、父から「若いうちに挑戦した方がいい」と背中を押してもらったことで、独立に踏み切りました。

今は自院の安定を第一に活動

専門学校時代に研修で中国を訪れたときのことです。実際に現場で解剖見学があり、教科書だけでは分かりにくい関節の構造や筋肉の走行を一つ一つ自分自身の目で見ることができました。また中国の病院で本場の治療を見られたことも、今思うと貴重な経験でしたね。よく言われますが、若いうちから本物に触ることは何にも代え難い財産だと思います。私が通った専門学校はいい意味で先生との距離が近く、先生方が経験された臨床での治療や注意しないといけないポイントが、自分が現場に立つようになってとても役に立っています。

父から背中を押され開業した私ですが、今は先ず院を安定させることが第一ですかね。慣れないことも多く、毎日バタバタしています。これからはスタッフを雇い、もっと医療器具を充実させ、往診にも力を入れて活動していきたいと思います。そして、将来的に同じ仕事をしている父と一緒にやることが目標です。



■柔道整復師・鍼灸師
コツコツ鍼灸整骨院 院長
大谷芳貴さん

2016年／せのがわ鍼灸整骨院で柔道整復師・鍼灸師として勤務
2017年／コツコツ鍼灸整骨院を開業

History



IGL医療福祉
専門学校[広島]

case
39

Yuka Kawano
四国医療専門学校【香川】
2008年卒業

私たちの関わる事業の裾野を、
時代と共に拡げていきたい。

井の中の蛙にならないように

柔道整復師として30年以上続く伝統ある愛媛県の、松山鍼灸整骨院の二代目として、外傷捻挫、スポーツ傷害、ぎっくり腰などを診ています。また女性特有の不調に対して骨盤調整を行うことや、小顎調整・瘦身で成果をあげるプログラムも提供しております。診察する時は、目の前の患者さん一人ひとりに合わせた対応を心がけています。痛みに関しての感じ方は様々で、どこに、どんな、いつからという問診を丁寧にして読み取るようにしています。本人が気づいていなかったところまで行き届いてこそ本来の心身の健康を取り戻します。たとえ同じ患者さんでも今日の最適が明日の最適とは限りませんからね。

仕事以外にもコミュニケーションを体系づけて学ぶために、実践心理学と言われるNLP(神経言語プログラミング)を2年ほど研修を受けた後、アメリカでトレーナーの資格を取得しました。また施術レベルを上げるために研修に参加したり、他の治療院で自分が施術を受けたことも。ポイストレーニングにも通い、接客するにあたっての声のトーンも学びました。とにかく井

中の蛙にならないように、積極的に外に出て学びを得ています。

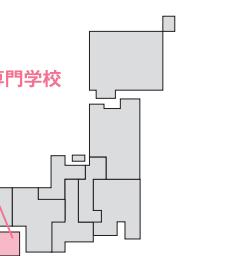
ネットワークを創って情報発信

実技や生理学など実践的な勉強に加え、進路指導や就職まで丁寧なバックアップがある専門学校でしたので、今は学校説明会へ参加したことや同卒業生が当院に数名就職しており、やりがいを持って仕事をする仲間に巡り会えたことも大きな財産となっています。今後は学んだことを活かしてコミュニケーションセミナー開催の機会を増やし、同業者の方と一緒にグループ事業としては鍼灸整骨院以外に、訪問介護やデイサービスなどの介護事業、福祉事業も展開しております。柔道整復師や鍼灸師として関わることのできる分野を時代と共に拡げていくべく取り組んでいます。そのためには地域に根ざして老若男女を問わず必要とされる存在であり続けることが最も大切なことだと考えます。個人的にも治療家、経営者、家庭人という立場でバランスを取りながら努力していきます。

■柔道整復師
松山鍼灸整骨院 勤務
川野 裕香 さん



四国医療専門学校
[香川]



case
40

Chihiro Munetsugu
河原医療福祉専門学校【愛媛】
2019年卒業

「何事も当たり前ではない」
感謝の心で接することが大切

感謝の心で日々成長できる

専門学校では、治療技術や医療知識を学ぶだけではなく、同級生と協力する大切さなども学ぶことができ、自ら主体的に行動する積極性なども身につけることができました。また、私は学生時代の鍼灸接骨院でのアルバイトで、学んだこともたくさんあります。患者様とのコミュニケーションの取り方、社会人としてのビジネスマナー、治療家としての考え方など。この経験のおかげで、患者様と信頼関係を築くことができるようになりました。

柔道整復師として働くようになってからは、患者様が健康で笑顔になれるように励んでいます。特に心がけてきたこととして、何事に対しても「感謝する」ということがあります。一人でできる仕事は限られており、周囲の協力やサポートのおかげで仕事ができていると思います。「何事も当たり前ではない」という意識を持ち、常に周囲に対する感謝の気持ちを忘れずに接するようにすることで、自分自身も日々成長することができていると思います。

知識や技術を後進に伝えていく

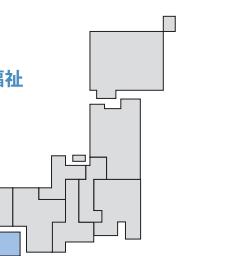
院長として治療院を任せられてからは、地域社会に貢献ができるようにスタッフの教育・指導に力を入れています。そのための自己研鑽もしています。リーダーシップやマネジメントの研修を受講したり、ビジネスに関する知識や考え方を理解するために書籍を読むなど心がけています。初めて見聞きする内容の中には難しく、理解しにくいものもありますが、諦めたり逃げたりせずにインプットできるよう勉強しています。自分のためでもありますが、学んだことをアウトプットすることで治療院スタッフ全員の成長にもつながると思うからです。これからも新しい知識や考え方を学び、成長し続けることができるようしたいです。

将来の目標は、地元(四国中央市)で鍼灸接骨院を開院し、地元に貢献・恩返しをしたいと考えています。そして、より多くの患者様に健康で笑顔になつてもらえるように治療をしていきたいです。院長としての能力、高い治療技術など今まで以上に様々なことを身につけて、成長していきたいと考えております。

■柔道整復師
だいふく鍼灸接骨院 伊予院 院長
宗次 千尋 さん



河原医療福祉
専門学校
[愛媛]



2016年／だいふく鍼灸接骨院でアルバイトとして勤務
2019年／河原医療福祉専門学校柔道整復師科 卒業
2019年／柔道整復師の資格を取得しだいふく鍼灸接骨院に勤務
2020年／だいふく鍼灸接骨院 伊予院長

History

case
41

Akira Sasaki
福岡医療専門学校[福岡]
2008年卒業

卒業後5年で開業することを目標に、私が考えて選んだ近道。

日本一患者の多い整骨院で勉強

専門学校を卒業してから「5年後には開業する」と決めていました。その目標があり、5年間で一番勉強と経験ができる環境に身を置こうと考え、福岡県で店舗展開している整骨院グループに勤めさせていただきました。そこは来院する患者さんの数では日本一といわれる整骨院で、そこで多くの症例を実際に目で見て、自身の肌で経験することができました。ここで5年勤め、兄が先に鍼灸院を立ち上げていたこともあり、平成25年4月に鍼灸師である兄と長崎県五島市で鍼灸整骨院を開院しました。

現在は五島市に2店舗、石垣島に2店舗の計4店舗を経営しています。私の仕事内容は、院に来られる患者さん一人ひとりに最高の治療サービスを提供することです。患者さんは様々な症状を抱えていますので、私たちが重視していることは、整骨院で対応が可能か、それとも医療機関で診てもらうべきかを判断することです。4店舗合わせて毎日400名近くの患者さんが来院されますが、一人ひとりに合つた最善の治療の選択ができるかをスタッフ皆と共有しています。

離島でも質の高い治療サービスを

どの仕事においても基礎や基本は大切だと思います。それを学べたのが専門学校時代でした。どの教科においても専門学校で勉強したことが臨床に役立っていますし、今でも専門学校時代に使っていた教科書を引っぱり出して勉強することが多々あります。

私ども兄弟は離島出身で医療水準の低さを体験してきました。整骨・鍼灸業でも島に良い治療院がないから、わざわざ飛行機や船で本土の治療院に足を運び、治療を受けることが多いことを知っています。これからはいろいろな離島に院を展開し、各島の方々に質の高い治療サービスを提供できる組織づくりをしていこうと思っています。また、一緒に働くスタッフが幸せになれるような、そして一緒に成長できるような院にしていきたいです。

■柔道整復師
佐々木接骨院・鍼灸院 石垣院 院長
佐々木旭さん

2008年／福岡の堺整骨院グループで柔道整復師として勤務
2013年／五島福江で株式会社佐々木整骨院を開院
2017年／3月に石垣島に大川院を開院
5月に五島に三井楽院を開院
7月に石垣島に真栄里院を開院

History



case
42

Jitsuo Machida
福岡医健・スポーツ専門学校[福岡]
2011年卒業

「健康を通じて社会貢献」がずっと変わらない私のミッションです。

時には小・中学校から講演の依頼も

私と妻の2人で整骨院を経営しており、月曜日から土曜日まで施術しています。施術者は私一人なので基本的に予約優先で、一人ひとりの患者さんに、ある程度の時間を確保しています。施術は徒手的なものと運動を組み合わせているのが特徴です。整骨院の他には通所介護を週2～3回、半日ですが機能訓練指導員として勤務し、自分の整骨院とは違った刺激を受けています。また、近隣の市町村の健康教室の講師や、小・中学校からスポーツ障害の予防やコンディショニングについての講演を依頼されることもあり、徐々にですが地域で存在を知っていただけたようになりました。日々心掛けているのは患者さんとそのご家族にとって、そして私自身や私の家族に何らかのプラスになるような仕事をすることです。そのためには自分のできることに全力で取り組む、人と人とのつながりを大切にする、情報収集や自己研鑽を怠らないといった点を大事にしています。

諸先輩からのアドバイスが貴重な財産

今まで医療機関での経験はありましたが、開業するとなるとまた違った仕事になります。そのため療養費や書類に関しては、県の柔道整復師会の研修会やボランティアに参加して、諸先輩にいろいろなアドバイスをいただいています。また、技術面では、以前から参加している高校野球やラグビーのメディカルサポートに加えてマラソンやテニス大会にも参加し、現場で必要な技術の習得を心がけています。開業してあらためて痛感したのは、外傷の判断の重要性です。骨折や脱臼というのは頻繁に遭遇するわけではないのですが、それだけに判断を適切にする必要があります。そんなときに先生方に臨床で得た感覚やコツを教えていただいたことがとても役立っています。これからはケガの治療だけでなく、予防に向けた地域や職場、スポーツ現場の活動にも力を入れていきたいと考えています。今後も体が続く限り臨床は続けていきたいですし、健康を通じて社会貢献するというミッションに向けて初心を忘れず、目の前の施術にベストを尽くしたいと思います。



■柔道整復師・機能訓練指導員
PLUS+整骨院 院長
町田実雄さん



case
43

Yoshinori Morita

福岡天神医療リハビリ専門学校【福岡】
2014年卒業

お客様を1日でも早く元気になる。
それが毎日のモチベーションです。

広い視野で施術を行うために

現在、私は勤務する整骨院で施術を行なうながら、空いた時間を利用して訪問マッサージ活動、休日にはスポーツ現場でのトレーナー活動や地域の方を対象とした参加型イベントなども実施しています。普段から「お客様を1日でも早く元気になる」ことを意識し、そのための知識や技術、患者さんとの接し方、新メニューの考案など多方面にアンテナを張って、今自分にできることに全力で取り組んでいます。また自分の経験や考えにとらわれる事なく、素直で謙虚であることを心掛けている。色々な出会いを通して広い視野を持って施術するようにしています。そのためにカイロプラクティックをはじめ、リハビリに役立てられるよう専門的なAKA療法やPNF(固有受容性神経筋促進法)といわれる治療法も学びました。

女性を意識した施術も視野に

今、勤務先で患者さんに施術を行う際に、整形外科的検査法など学んだことが役立っていると実感しています。学校では知識や技術をたくさん経験しますが、やっぱり現場に出ることで学校での学びの本当の意味を知ることができるように気がします。これは仕事として働くことで、初めて気付くことかもしれません。

これからは地域に根ざす整骨院として、地域の方から必要とされ頼られる院を作りたいと思います。一時的に痛みを取るのではなく、患者さんがずっと健康で笑顔でいられる毎日を過ごせるようサポートできる院でありたいですね。また治療だけではなく、ダイエットや美容のメニューといった女性を意識した施術を充実させていきたいと思います。

■柔道整復師
笠原整骨院 勤務
森田祥成 さん



case
44

Shinichi Demizu

九州医療スポーツ専門学校【福岡】
2013年卒業

共に世界で活躍できるトレーナーを育てていきたい。

プロフェッショナルな仕事に必要なこと

現在は、年間約100日を海外でトレーナーとして活動し、国内にいる際は、整骨院事業のマネジメントや患者さんへの施術を行っています。職場の理念でもある「挨拶・感謝・感動・責任」を心掛け、トレーナー活動をする上では、選手や周囲のサポートをしてくれる仲間との「信頼関係」を大事にしたいと考えています。また、授業とは別に行われた課外授業のトレーナー活動に積極的に参加し、多くのトレーナー現場で体験してきたことも、今の自信につながっています。

昔自分も感じたように、スポーツをする人は誰でも、パフォーマンスの向上やケガをした時のリハビリなどで、辛さや悩みを感じていると思います。

今後は、そのような方々を一人でも多くサポートできるように自分自身も頑張っていきたいですし、世界で活躍できるトレーナーも育てていきたいと思っています。

■柔道整復師・スポーツトレーナー
学校法人国際学園 勤務
出水慎一 さん



case
45

Teiji Seki
九州医療専門学校[佐賀]
2013年卒業

技術と知識、重ねたキャリアで、人を育て、患者様にも還元していきたい。

技術だけでなく、周囲への気遣いや気付きを身につけてほしい

現在、出身校の教員として1年生の担任をしています。この道に進んだのは、自分自身がキャリアを積む中で、現場で必要とされる人材の育成をしたいと思うようになったことが契機です。

専門学校では、柔道整復学などの講義を中心に、学生指導や国家試験対策など多岐にわたる業務を行っています。時には、付属整骨院勤務の柔道整復師の先生方と患者様の様々な症状について議論したり、治療方法を考案したりと、日々研鑽を積んでいます。

1年生の担任をするにあたっては、卒業後、即戦力として活躍できる技術を身につけてもらうことはもちろんですが、周囲への気遣いや積極性、気付き(例えば落ちているゴミを拾うなど)を学生の間に習得してもらいたいと思い、指導しています。

■柔道整復師
九州医療専門学校 勤務
勢木禎二さん



九州医療専門学校
[佐賀]



case
46

Misaki Kochi
専門学校 沖縄統合医療学院[沖縄]
2019年卒業

ケガの処置から運動指導・予防など、すべてをできることを伝えたい。

スポーツをしている方のケガや悩みを解決したい。

学生時代にバスケットボールをしていましたが、ケガをくりかえしていました。その経験からスポーツをしている方のケガや悩みを解決・予防したいという目標が、柔道整復師になるきっかけとなりました。以前勤めていた整骨院で、スポーツをしている学生への運動指導をした事や、ケガの施術を経験し、更にその思いが強くなりました。その為に、骨折・脱臼・捻挫などをしっかり見ることができ、予防もできる柔道整復師を目指したいと思い、今の接骨院へ転職しました。

現在は、病態検査・エコー検査を行ったり、病態や症状に応じた施術を行っています。当院では予防にも力を入れている為、競技復帰に向けての運動指導も行っています。また、スタッフで症例報告を行い、情報共有や今後の治療に関するミーティングなどを行っています。私自身は、スタッフチーフという役割も担い、院内を円滑に回す努力をしたり、院内で実施しているプログラムの管理もしています。

■柔道整復師
株式会社sports medical gate 宜野湾
スポーツ接骨院 勤務
幸地美咲さん



専門学校
沖縄統合医療学院
[沖縄]

